

## 子どもの食べる意欲を育てよう

子どもが毎日楽しくごはんを食べてくれたらうれしいですね。しかし、実際には、1歳を過ぎると「好き嫌い」や「遊び食べ」が始まり、「しっかり栄養をとれている？」と心配になることもあるようです。今回は、子どもの成長に合わせた食事支援の方法をお伝えします。毎日の食事で、子どもの食べる意欲を育てる食育を実践しましょう。

### ★子どもの発達を理解して支援する

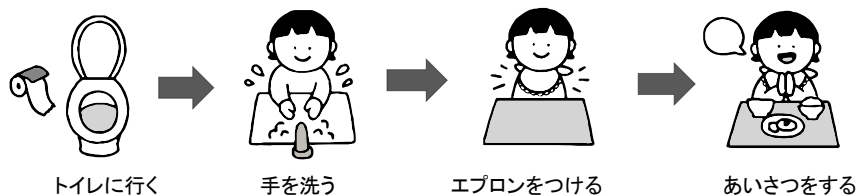
#### 1・子どもが集中できる環境をつくる

この時期の子どもは、気になることがあれば、すぐに食事から気がそれて、食べる意欲が低下してしまいます。環境を整えて、食事に集中させてあげることが大切です。



#### 2・気持ちを切り替えるルーティーンをつくる

子どもは、言葉を理解して、行動したり、気持ちを切り替えることが苦手です。食べる意欲を持たせるためには、食事の前の行動を定型化して、食事に向かう習慣を身につけさせるのが効果的です。



#### 3・初めてのものは、食べ慣れた味・器で提供する

子どもには、「初めてのものを避ける」という、防御本能が備わっています。これは1歳を過ぎると強まり、2～6歳でピークに達します。子どもが少しでも安心できるように工夫して、食べる意欲を引きだしましょう。



### ★子どもの「好き嫌い」を理解して支援する

#### 1・子どもが苦手な味はゆっくり練習

人には、生まれながらに、生きるために有益なものを「好き」と感じ、有害なものを「嫌い」と感じる能力が備わっています。毒や腐敗のシグナルともなる「苦味」や「酸味」は、喫食回数を増やすことで、自分から意欲的に食べることができるようになります。

安全で有益!

甘味  
うま味  
塩味(低濃度)



害があり危険??

酸味  
苦味



子どもが好きな味...受け入れやすい

子どもが苦手な味...練習が必要

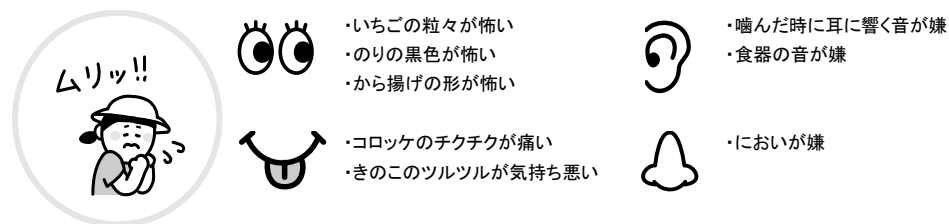
#### 2・苦味を強く感じる場合は、無理強いNG

苦味を感じる最低の濃度は、人によって1000倍から1万倍程度も異なることがあります。苦味がある野菜を嫌う場合は、苦味を抑える食材を組み合わせる練習をしましょう。



#### 3・敏感になって嫌がる時には、おおらかな気持ちで見守る

食経験が少ない子どもは、何かに極端に反応して、食べることを拒否する場合があります。今まで平気だったものが、急に気になり、その時だけ嫌がることもあります。そんな時には、無理強いしたり、否定しないことが大事。おおらかな気持ちで見守ってあげましょう。



### ★お知らせ★

12月から、サンプルケースの掲示が変わります!

12月からは完了期食、蒲公英組、向日葵組の1日の食事内容も掲示します。ご家庭でのお子様の食事量の目安になればと思います。参考にしてみてください。